

一今世島臺と云ふ物、昔も有之。古は島形と云ふ、蓬萊も島形の内なり、洲濱形略圖。如此に臺の板

を作る、海中の島のすその海へさし出たる形、右の圖の如くなるを洲濱と云ふなり。されば島形とも洲濱がたとも云ふ、其上に肴を盛る也。かざりには岩木花鳥などを置く也。略下

〔松屋筆記百十三〕蓬萊島臺洲濱 島臺は蓬萊の島のつくりもの、臺なればさいふ也。洲濱など同物也。紫式部日記傍注、本下卷五丁に、御前に扇どもあまたさぶらふ、中に蓬萊つりたるをしもえりたる心ばへあるべし云々、洲濱は同上卷三丁に見ゆ。

〔豊鑑三〕内野行幸

初獻の御かはらけ御氣色あり、三獻には天盃天酌、五獻には盈香合御進上、七獻には御劔御進上、とりぐ御肴くだ物、あつもの、金銀の作花、折臺の物には蓬萊の島に鶴龜のよはひ松竹のみさほなど、行末の千年をいはひそなへたる物也。

〔太閤記十一〕行幸

御會月十六日和歌會のけしきいとゆ、しく、披講畢て主上入御ならせ侍りけり、かくて各御膳の、ちとりぐの御酒宴さまぐの臺之物折などかずくにして、夜半の鐘聲殿中に入しかば、咸退出之御暇給りけり。

〔御湯殿の上の日記〕慶長八年四月六日、御くわいあり、御人じゆ、せうかうゐん殿、めうほうゐん殿、しやうごゑん殿、このゑん殿、う大辨にしのとうゐん、あすか井六でうなり、しゆひつゐのくま也。御ほつくめうほうゐん殿にて、おりだいのもの、御たる參る、夕く御參るはて、くもじ参る、
〔當流節用料理大全〕春 高砂 あいきやう おさへかきつけた、 夏 浦島太郎 おさゑかうほれ、
秋 慈童 きくすい おさえ雲 かさね、 冬 孟宗 おさへ水仙 おさへうは